

第4回小郡市幼児施設審議会 会議要約

日時	平成28年1月19日(火) 14:00~15:45
場所	小郡市人権教育啓発センター1階 大集会室
出席者	<p><委員></p> <p>会長：永水委員、副会長：大隅委員</p> <p>委員：安部委員、石川委員、田籠委員、廣瀬委員、大石委員、井手委員、久保山委員、児島委員、安本委員</p> <p><事務局職員> 鮫島保健福祉部長、伊東子育て支援課長、野田子育て支援係長、成富子育て支援係員</p> <p><関係課等職員> 佐藤教育部長、山下教務課長、白石教務係長、大塚教務係員</p> <p><傍聴者> なし</p>
資料	<p>○第4回 小郡市幼児施設審議会会議次第</p> <p>○第3回 審議会会議要約</p> <p>○委員からの提出資料</p>
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>第1回から第3回審議会の内容確認を会議要約で行う。</p> <p>当初全4回開催予定を、審議を深めるため全5回へ変更した。</p> <p>本日はこれまでの審議を受け、現状のままでの存続が難しい公立幼稚園を、どうすれば存続できるのかを話し合いたい。</p>	
<p>2 審議「公立幼稚園のあり方について」</p> <p>事務局からの平成28年4月入園予定の公立幼稚園の園児数の説明を聞く。</p> <p>事務局：小郡幼稚園の年長32名、年少25名、合計57名（3クラス）、三国幼稚園の年長23名、年少20名、合計43名（2クラス）で、2園の定員420名に対し充足率は23.8%となり、平成27年度より6%下がる見込み。（平成28年1月7日時点の申込）</p> <p>会長：事務局より説明があったが、ご質問は。</p> <p>委員：小郡幼稚園には、2月に引越後の申込者が年少に1名いる。</p> <p>会長：公立幼稚園の園児は少なくなっている。本日は、答申案の作成に向けた話を進めていくために、各委員から意見をお伺いしたい。前回の中で、「別の視点での審議を考えて欲しい」との意見があった。委員から事前に資料が配られ、本日はまとめの資料が配られた。委員には後で説明をお願いします。</p> <p>委員：保護者は、公立幼稚園を今の形（教育方針とか）での存続を望んでいる。全く違う形になるとそれは保護者の要望ではない。財政負担とかの市の方向性を明らかにしているのにこの委員の資料のような内容は可能なのか。事務局に聞きたい。</p> <p>事務局：幾度か申し上げたが、今以上の財政負担は考えていない。そのため、現状の市の考えに「認定こども園」は無い。</p> <p>委員：先日配ったのは、私見で、長期的に考えてのものだったが、勇み足だった。今日はま</p>	

とめたものを配布した。審議会では自由に考えて答申を出し、当局がそれをどうするかであつて、初めから制限はもうけないものではないか。財政面を考えたら、廃園か民間委託しかない。

委員：同感。市の方針を出していかないと公立幼稚園の存在意義が無い。

委員：財政面を考えると、とっくに廃止されている。保護者のニーズに合わせ赤字でもしてきた。保護者の思いを組んで「公立を残す」と第2回目に決めた。公立を残す方策を考えるとなったのに、元に戻っている。今の予算内なら存続は可能と市は言っているなら、どうするかを検討するための審議会と思っている。

委員：それは疑問。幼稚園運営は営業だと考えるので、赤字の垂れ流しはだめ。存続なら、利益が上がるよう営業していくもの。民間の幼稚園と同じ考えを持たないとだめ。

委員：営業と言われると、廃園しかなくなる。

委員：先に配布した資料は先走っていたが、廃園も一つのあり方なのは変わらない。

事務局：教育委員会の立場から、議会からも園児減少の指摘を受けている。幼稚園は義務教育ではないが、公教育の役割を持っている。

委員：地域代表の立場から言うと、財政的には廃園もあるが、ただ、地域の発達支援が必要な子どもの受け入れや、幼小連携の研究機関としての公立は必要なので、2園無理なら1園は残して欲しい。

委員：2園は財政的に無理なら、1園は残して欲しい。私立は収支を考えなくてはならないが、公立は公立の役割を果たしている。総合的に判断すると1園は残して、保護者が公立に入れたと思う幼稚園になって欲しい。

会長：他にご意見は。

委員：営業が成り立たないのは定員割れしているから。募集期間を私立と同じ時期にするなど、工夫していく。2～3年様子を見ることを答申に入れてはどうか。

委員：今年も募集があっていたが、その園児が卒園するまで、2～3年かけて、保護者や地域に納得してもらおうということなのか。

委員：市は幼稚園を運営していく気があるのか。気持ちが見えない。

事務局：幼児教育の充実として幼稚園を運営する気はある。現実問題として園児の減少があり、財政的制限がある。答申を受けて、市の方針を出していく。

委員：市が公立幼稚園の運営をやる気が無いなら、廃園しかない。

会長：事務局は「幼稚園は残す」方向としている。現状のままでは厳しいので残す方法について「審議会」を開催し方策を検討していると私は考えているがよろしいか。

事務局：2回目の審議会で「幼稚園は残す」と決まり、事務局は御礼を言った。が、予算は現状同様までとしている。今回は行革としての諮問ではない。残すために何をしていけばいいのかを検討し答申に入れていただきたい。

委員：園児の募集期間の変更は可能か。

事務局：特別な決まりは無いので変更できる。今回答申に入ったならば、十分検討して変えていく。

委員：通園バス無し、給食無しで、マイナス面が大きい。より有利な「授業料が安い」を前面に出して教育方針を強調して園児を確保していく。2～3年様子を見て、効果が無ければ・・・

となるのではないか。

委員：再度聞くが、現状維持なら幼稚園は2園存続が可能なのか。

副会長：スタート時点に戻った様だが、園運営にやる気はあるが財政的に厳しいため市からの諮問となった。審議会の役割はどこまでなのか。

委員：会議の2回めから公立幼稚園は存続となったが、種々の条件を聞くと存続しても2～3年先は厳しいと行政的に見ている。2園の良さを生かしていく方向で、3年先には1園に絞り込む、そのときには、3年保育も入れ、保護者や地域のニーズを取り入れていくのはどうか。

委員：宝城幼稚園のときはどんな経過をとったのか。

事務局：平成9年、10年に審議会を開き、10年9月に「廃園休園等の措置により対処」との答申が出た。議会へも休園報告をし、実際には平成13年から休園となり平成23年に廃園。

委員：そのときも委員だった。前回と同じでは遅すぎる。答申をきちんと考えないと責任逃れになるのでは。

委員：幼稚園に来て園の運営を園長が責任を持って改善し、委員会にもっていく。今までは、危機感が足りなかった。この審議会で意見をいただきありがたい。

委員：さっきは、そのやる気を尋ねたかった。意識は見えなかった。

委員：市は幼児教育をどうするのかを施策として論議すべきで、認定こども園もふくめてよいのでは。

事務局：いろんな意見をいただき、答申に入れていただきたい。全員一致なら一方向となるが、一致しないなら複数上げていただく。

委員：答申は1本の考えなのか。

事務局：答申のあり方はいろいろある。まとめれば1本、大筋2本なら両論併記となる。審議会の意見と付記を付けることも。市の施策の参考となるのでよろしく願います。

委員：答申には、以前のアンケートに出た3歳児保育・預かり保育・通園バス・給食など、どこまで書くのか。

事務局：具体的なことは職員が決めるのではなく、答申に付記されれば、市の検討になる。公立幼稚園の存続が答申の柱になれば、付記されたことを検討となる。

委員：質問だが、2～3年先にも審議会を開くのか。幼稚園で続ける気があるのか聞きたい。

事務局：方向性が出た答申をいただき、市が論議していく。例えば「公立幼稚園を存続する」だけなら、市で1園か2園かを検討していくことになる。

会長：「公立は残す」は出ている。どういう形で残すのか。1園か2園か。入園児が卒園するまでに園児の確保を努力する。公立幼稚園か認定こども園になるのか、が大きく2つある。その間にあるのが、サービス（3年保育・預かり保育・給食・通園バス）が考えられる。

委員：参考までに、他市の認定こども園になったメリット・デメリットを示して欲しい。参考にしたい。

事務局：確認し、お示ししたい。会長が言われた内容での答申の形でよいか。

委員：公立は、3年先は認定こども園しかないと考えている。長期的には公立の幼稚園・保育所の良さを併せた認定こども園が必要となる。

委員：幼稚園は減ってきている。先を見越した施策を求める。また、市民の求める公立幼稚園は残して欲しい。

事務局：現状では幼稚園を認定こども園に変えることは考えていない。認定こども園の必要があれば、子ども子育て支援計画の中での審議になるので、別の会議で審議となる。この審議会では中期的、5年後くらいのことを考えて、諮問の内容での答申をお願いします。

委員：公立を残すためにどうするのか、という審議会と思っている。文科省も幼児教育は3年間としている。答申には最低でも3年保育を入れて欲しい。

会長：他の委員さんの意見は。

委員：実際ニーズがあるのだから、3年保育・園児募集方法の変更を行い、2～3年様子を見、だめなら統合していく、将来的に。

会長：他には。

委員：大枠は見えてきた。幼稚園の2園をどうするか。どちらかを残しどちらかを廃止するなら反対。2園を廃園し、新たな1園を新設するという発想で考えて欲しい。

委員：市議が言っていたが、古い園舎の建替え費用も考えておくのか

副会長：どこまで、具体的な文言で答申にもりこむのか。ある程度の方向性はでているのでは。それ以上は市に任せていいのでは。

委員：1園残す、2園残すは言えない。「園を残す」しか言えない。事務局に丸投げしていいのでは。先を読まなくていいといっている。やる気をなくす答弁ではないか。

事務局：各委員はいろいろな意見を出していただいている。それを集約して答申にまとめて入れ込んでいくのでは。

委員：三国地区は子育て世帯の転入が多いので、幼稚園は必要。2園廃止は難しいと思う。

委員：小郡市保育協会の方の意見として、先を見越して認定こども園を目指して欲しい。幼稚園のままは今後厳しいと思う。

委員：事務局の意見のようにまとめていいのでは。

会長：審議会として、公立幼稚園は残していく。特に要望のあった、3年保育を織り込んでいく。園児募集方法の改善、授業料の安さ、HPでの情報公開など、公立幼稚園の良さをもっとアピールしながら、若い世代の保護者を獲得していくことを考えていく。2園を統合していくことや、また、新たな場所に建設することも踏まえていくということによろしいでしょうか。

3 その他

事務局から第5回審議会（平成28年2月22日（月）午後2時開会）を説明。

4 閉会のあいさつ